安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00503
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　担 当 者 ：平　　博 司
電話番号　：03-5788-8695　　FAX 番号 ：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質	無水フタル酸
製品名	無水フタル酸-3,4,5,6-d_4

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入： ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1(呼吸器系)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分 3
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 飲み込むと有害（経口）

皮膚刺激

重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害
水生生物に有害

注意書き：　【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

---

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分‥	単一の化合物
化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥	無水フタル酸
別名 ‥‥‥‥‥‥‥‥	１，３－イソベンゾフランジオン
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥	９９．５％以上
化学式又は構造式 ‥‥‥	$C_6H_4(CO)_2O$
官報公示整理番号 ‥‥‥	化審法（３）－１３４４
ＣＡＳ番号 ‥‥‥‥‥	８５－４４－９
国連分類番号 ‥‥‥‥	８（腐食性物質）
国連番号 ‥‥‥‥‥‥	２２１４

---

4. 応急措置

目に入った場合 ‥‥‥‥	直ちに多量の流水で１５分以上洗浄し、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 ‥‥	汚染された衣服はすぐ取り替え、多量の水及び石鹸で洗い流す。
吸入した場合 ‥‥‥‥‥	直ちに空気の清浄な場所へ移し、安静にして、医師の手当を受ける。呼吸が停止している場合は人工呼吸を行い、呼吸困難な場合は酸素吸入を行う。
飲み込んだ場合 ‥‥‥‥	直ちに吐かせ、医師の手当を受ける。患者に意識がない場合には、口から何も与えてはならず、吐かせようとしてもいけない。

---

5. 火災時の措置

消火剤 ‥‥‥‥‥‥‥‥	泡、粉末、二酸化炭素、大量の水
消火方法 ‥‥‥‥‥‥‥	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。周辺火災の場合、容器を安全な場所へ移動し、移動不可能な場合は、容器を破損しないように、周辺に注水し冷却する。
消火活動上の注意事項 ‥	消火作業は風上から行う。

---

6. 漏出時の措置

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 付近の着火源となるものは、速やかに取り除く。少量の場合は、保護手袋等を着用して、空容器に回収する。大量の場合は、土砂、土嚢等で流出を防止し、空容器に回収する。作業に際しては風下を避け保護具を着用し、蒸気を吸入する、皮膚に付着する等がないようにする。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・ 火気厳禁。目、皮膚の接触及び蒸気の吸入を避け、各種保護具を着用する。蒸気の発散をできるだけ抑え、十分な換気を行う。取扱い後は手洗い、洗顔を十分に行う。

保管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 直射日光を避け、風通しの良い冷暗所に密封して保管する。火気厳禁。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。

許容濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ 日本産業衛生学会：データなし。
ＡＣＧＩＨ（１９９１－９２年度版）ＴＬＶ－ＴＷＡ：
１ｍｇ／ｍ３（６．１ ｍｇ／ｍ３）

保護具 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋、保護衣等を必要に応じて着用する。

設備対策 ・・・・・・・・・・・・・・ 局所排気装置、全体換気装置を必要に応じて設置する。建物は耐火構造とし、電気設備は防爆が好ましい。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 無色又は白色の結晶で特異な香気がある。熱すると昇華する。水とともに煮沸するとフタル酸になる。

沸点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２８５℃（昇華）

融点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３１．８℃

比重 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １．５２７（４℃）

溶解度 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 水に溶けにくい。温水に溶ける。エタノールに溶け、ジエチルエーテルにわずかに溶ける。

蒸気圧 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １ｍｍＨｇ（９６．５℃）

蒸気密度 ・・・・・・・・・・・・・・ ５．１（空気＝１）

引火点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １５１．７℃（密閉）

発火点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ５７０℃

爆発限界 ・・・・・・・・・・・・・・ 下限：１．７ ｖｏｌ％ 上限：１０．５ ｖｏｌ％

可燃性 ・・・・・・・・・・・・・・・ あり。
発火性 ・・・・・・・・・・・・・・・ なし。
爆発性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 粉じん及び蒸気は、空気と爆発性混合ガスを作る。
粉じん爆発性 ・・・・・・・・・・ 粉じん濃度が１５ｇ／ｍ３以上であれば、着火源により粉じん爆発を起こす。
その他 ・・・・・・・・・・・・・・・ 酸化銅、硝酸、亜硝酸ナトリウムと混合不可。

---

10. 安定性及び反応性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 酸化性物質と反応する。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ ＬＤ５０　８００ｍｇ／ｋｇ（経口　猫）
ＬＤ５０　４０２０ｍｇ／ｋｇ（経口　ラット）
症状として、結膜炎、角膜炎症、鼻炎、嗅覚脱失、音声障害、気管支炎、気腫、食欲不振、弱化、じんま疹、皮膚の火傷、皮膚の褐色色素異常斑を伴う。
刺激性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 粉じん及び蒸気は皮膚、眼、及び粘膜を強く刺激する。
皮膚腐食性 ・・・・・・・・・・・・ データなし。
感作性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 皮膚、及び呼吸器に感作性がある。
亜急性毒性 ・・・・・・・・・・・・ １２０日間以上１００ｍｇ／ｋｇ／日ラットへの経口投与をした場合、かなりの体重減を示したが、致命的なものではなかった。気管、気管支、胃の粘膜の刺激以外、肝臓、腎臓、心筋の縮退が観察された。ラットに於いて、７０日間５４０ｍｇ／１の濃度にさらされ続けると、運動神経に影響が出る。
がん原性 ・・・・・・・・・・・・・・ 発ガン性が認められたとする報告はない。
変異原性 ・・・・・・・・・・・・・・ 変異原生が認められたとする報告はない。
生殖毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
催奇形性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。

---

12. 環境影響情報

分解性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 既存化学物質安全点検結果では、分解性良好と報告されている。
蓄積性 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
魚毒性 ・・・・・・・・・・・・・・・ （ヒメハヤ）ＴＬｍ（９６時間）：＞ ５６ｍｇ／ｌ

---

13. 廃棄上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 可燃性の溶剤に溶解し、アフターバーナーを備えた焼却炉で処

理するか、紙、又は他の可燃性材料で包んで、焼却炉で処理する。もしくは都道府県知事の許可をうけた産業廃棄物処理業者に委託する。

---

14. 輸送上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 運搬に際しては、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。火気に注意する。

---

15. 適用法令

ＰＲＴＲ法 ・・・・・・・・・・・・ 第１種指定化学物質
労働安全衛生法 ・・・・・・・・ 名称等を通知すべき有害物
大気汚染防止法 ・・・・・・・・ 有害大気汚染物質
海洋汚染防止法 ・・・・・・・・ 有害液体物質（Ｃ類物質）
航空法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 施行規則第１９４条危険物告示別表第１腐食性物質
船舶安全法 ・・・・・・・・・・・・ 危規則第２、３条危険物告示別表第１腐食性物質
港則法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 危険物・腐食性物質
労働基準法 ・・・・・・・・・・・・ 疾病化学物質

---

16. その他の情報

【参考文献】

有害物質データブック　ザックス　藤原鎮男　監訳
石油化学工業協会編　MSDS　･38
14504 の化学商品　　化学工業日報社
危険物・毒物　処理取扱いマニュアル　海外技術資料研究所
化学品法規制検索システム　　日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS　　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。